

世界はつながっている

福井県立ろう学校 二年 木下 志穂

「えっ、ルワンダ？」

初めてその国名を聞いたとき、正直ルワンダについての知識は、ほとんどありませんでした。そのルワンダにある聾学校と交流しないかという話が、今年に入っていきなり持ち上がったのです。きっかけは、私の学校の先生と、ルワンダの聾学校に国際協力のボランティアとして派遣されているM先生が知り合いだったことです。

私はろう学校高等部の二年生。幼稚部からずっとろう学校に通っています。聴

覚に障害があるため、口話の他に、手話や筆談なども使っています。内弁慶で、知らない人と関わることは苦手なので、話すときはとても勇気が必要です。

最近、私達の学校では交流学习に力を入れていて、国内のいくつかのろう学校とは、すでに交流をしています。

けれど、外国の聾学校と交流するのは初めて。しかも、遠く離れたアフリカの未知の国。日本国内だったら、手話・筆談ができれば話ができます。けれど、人種も言語も文化も異なるルワンダの人と、どうやってコミュニケーションを取ったらよいだろうか？ルワンダと日本の手話とは違います。筆談するのも英語です。不安なことだらけでした。

まず、相手の国のことを知ること。交流に先立ち、インターネットでいろいろ調べました。そして、何十万の人が虐殺されたという悲しい歴史を知り、驚きと恐怖で身体が震えました。同じ高校生なのに、平和な日本で生まれ育った私たちとのあまりの違いに、大きな衝撃を受けました。

この段取りで大丈夫なのか。筆談用の英文は正しいのか。そして何よりも、お互いに楽しむことができるのか。不安と緊張との交流が始まりました。

高一の二月。スカイプで見るルワンダの聾学校の生徒たち。とても驚きました。

みんな同じ顔で、男子も女子もほとんど区別が付きません。たくさんの黒い顔ばかりが、興味津々でこちらを覗き込んでいるのです。ただ、印象的だったのは、どの子の瞳もキラキラしていることでした。結局、このとき私は委縮してしまい、一度も喋ることができませんでした。

そして、二回目、三回目の交流。回を重ねるにつれ、不安はほとんどなくなりました。しだいに外見の違いも見分けられるようになり、名前も一致するようになりました。今では、交流がとても楽しみです。

この交流は、私にとって、とても貴重な経験となりました。世界には、内戦で辛い思いをしている人たちがいる。障害を持ちながら、明るく懸命に生きている人たちもいる。それらを実感し、勇気づけられたのです。私も負けずに、前向きに進んでいかなければと思います。

十月の学校祭で、私たちは、ルワンダの聾学校との交流を紹介し、支援のための募金活動を計画しています。

二年前の東日本大震災では、海外の多くの国から支援を受け、「世界のつながり」に感動し、感謝しました。今度は、私達が困っている海外の人達に、できる支援をしなくてはなりません。世界はつながっています。同じ地球に住む人間同

士、お互いを尊重し、助け合わなければならないのです。

これまで、ルワンダの聳学校とは、スカイプやメールだけで交流してきましたが、できれば直接会って話してみたいです。そうすれば、もっともっとお互いの気持ちが伝わり、より理解し合えるのではないかと思います。

ルワンダだけでなく、世界中のいろいろな国に行って、直接交流したい。それが今の私の夢です。その夢をいつか必ず実現したいと思っています。